

妊娠15週以降の出生前検査

検査可能時期: 妊娠15週～21週6日

検査推奨時期: 妊娠15週～17週

クアトロテスト[®]

検査の位置づけ	スクリーニング検査
わかること	ダウン症候群、18トリソミー、 開放性神経管奇形の 胎児を妊娠している確率
検査可能時期	妊娠15週0日から21週6日まで 推奨時期は妊娠15週～17週
必要な検体	妊婦さんの血液

クアトロテストを受ける前には、
必ず医師にご相談の上、
遺伝カウンセリングを受けてください。

検査の方法

妊婦さんから血液を採取し、血液中の4つの成分（AFP、hCG、uE3、Inhibin A）を測定します。これらは妊娠中に胎児または胎盤で作られる成分です。

これらの成分の値は妊娠が進むにつれて増減し、その増減の仕方は、胎児が対象疾患に罹患しているかどうかに関連しています。

クアトロテストは、下図のような妊婦さんの情報と妊婦さんの血液の成分値を用いて、胎児がそれぞれの疾患であるかどうかについて確率を算出します。

妊婦さんの情報	血液の成分値
年齢	AFP
体重	hCG
妊娠週数	uE3
家族歴	InhibinA
インスリン依存性糖尿病の有無	

検査の所要日数は？

約10日間です。

公的医療保険（健康保険）は適用できますか？

自費診療になり、公的医療保険（健康保険）は適用されません。

検査の費用は？

主治医にご相談ください。



詳細は中面をご覧ください

検査の目的

クアトロテストは、胎児がダウン症候群、18トリソミー、開放性神経管奇形に罹患している確率を算出するスクリーニング検査です。より正確な情報を得るための、羊水穿刺による検査や、画像診断の必要性を考慮する材料になります。クアトロテストは、妊婦さん一人ひとりの確率を算出します。さらに、基準となる確率より高い場合はScreen Positive（スクリーニング陽性）、低い場合はScreen Negative（スクリーニング陰性）と報告されます。

※双胎妊娠の場合、あるいはインスリンまたは経口治療薬を必要とする糖尿病の場合は結果報告に制限があります。詳しくは主治医にご確認ください。

ダウン症候群とは

主に21番目の染色体が3本あることにより生じる疾患です。知的発達や運動能力の発達に遅れが見られます。病気にかかりやすく、心臓や内臓の病気を合併する可能性が高くなることが知られています。これらの合併症は治療が可能です。出生後、合併症を早期に見つけ、適切な治療を行うことが重要です。家族の積極的な関わりや専門家によるサポートのもとで早期からの療育や、特別に配慮された教育により、成人して社会生活を営むことも可能になりつつあります。

18トリソミーとは

18トリソミーは、18番目の染色体が3本あることにより生じます。多くの場合に主に心臓の形に変化が見られ、胎児がお腹にいる時期から目立った発達の遅れがあります。知的発達の障害は重度とされます。最近では、積極的な治療などで5～10歳ごろまでゆっくり発育・発達される方もいます。

開放性神経管奇形（神経管閉鎖障害）とは

妊娠初期に形成される胎児の神経管が正常に形成されないために、胎児の脳や脊髄に障害が起きている状態です。二分脊椎（脊椎が正常に形成されない場合）や無脳症（頭蓋骨が正常に形成されないために、脳が発達しない場合）があげられます。

クアトロテストを受けた後に検討する検査

報告された確率を確認した後に、胎児が対象疾患であるかどうかについて、より正確な情報を得るための検査があります。検査を受けるかどうかを担当医や専門医にご相談ください。

ダウン症候群または18トリソミーの場合

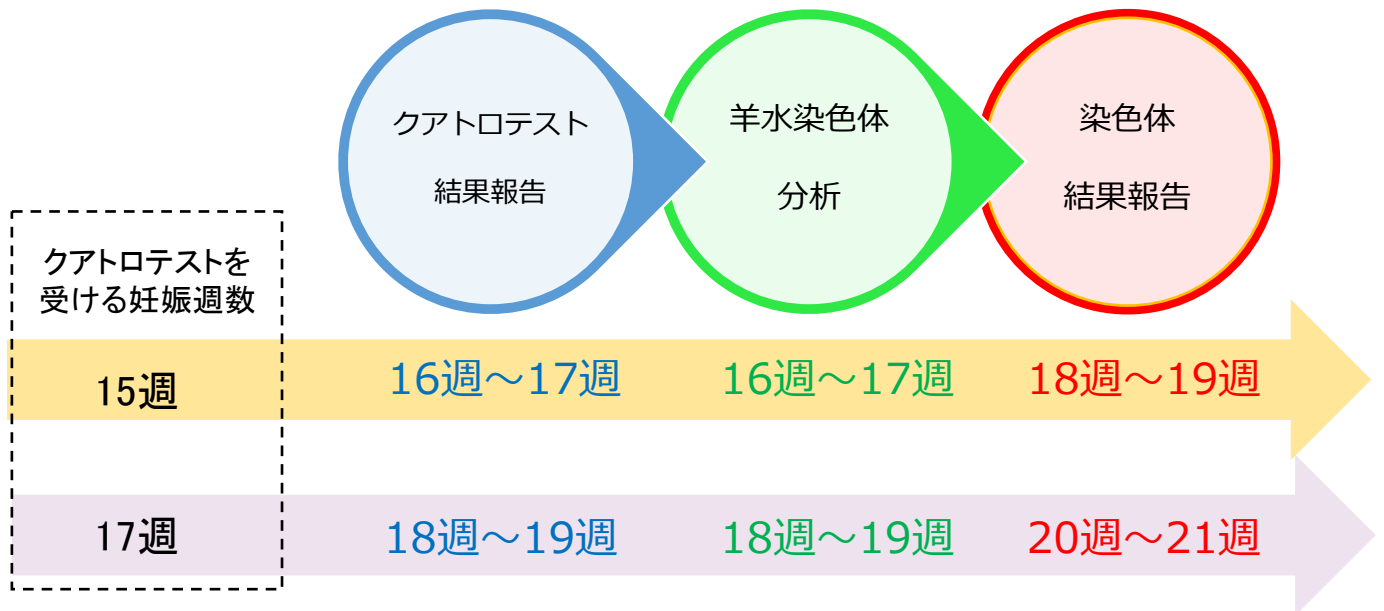
羊水染色体分析が確定診断となります。羊水を採取し羊水中に含まれる胎児細胞の染色体を調べる検査です。

開放性神経管奇形の場合

超音波検査などの画像診断、または羊水中のアルファフェトプロテイン（AFP）などの値を調べる検査があります。羊水AFP値が高い場合は、アセチルコリンエステラーゼも測定します。

検査を受ける時期について

クアトロテストは妊娠15週0日から21週6日まで検査可能ですが、羊水検査には約2週間を要することを踏まえてクアトロテストを受ける時期をご検討ください。妊娠20～21週頃までに羊水検査の結果を得るためには、妊娠15週～17週頃にクアトロテストを受けておくことが推奨されます。



検査の詳細は弊社HPをご覧ください

下記のQRコードからアクセスできます



<http://www.labcorp.co.jp/general/quattro01.html>

検査の前後には、必ず医師に相談し、
遺伝カウンセリングを受けてください。

医療機関名